

# 令和6年度 第1回岡山市自然環境保全審議会

令和6年8月22日  
岡山市環境局環境部環境保全課

# 1. (仮称)生物多様性おかやまプランの方向性

1-1 (仮称)生物多様性おかやまプランの内容構成(目次)

1-2 岡山市自然環境保全審議会 各回の審議内容(予定)

1-3 策定の視点

(1) 改定の背景、国内外の動向

(2) 策定の方針、重視する事項

# 1-1 (仮称) 生物多様性おかやまプランの内容構成 (目次)

## 第1章 計画の基本的事項

- 1 計画改定の背景及び趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 生物多様性について
- 4 改定の背景

## 第2章 岡山市の生物多様性の現状と課題

- 1 岡山市の概況
- 2 岡山市の自然の概況
- 3 岡山市の生物多様性の概況
- 4 岡山市における生物多様性に関連する施策等
- 5 岡山市生物多様性地域戦略におけるこれまでの取組
- 6 岡山市の生物多様性を取り巻く課題

## 第3章 岡山市がめざす生物多様性

- 1 基本理念
- 2 めざすべき将来像
- 3 目標
- 4 基本方針
- 5 施策の体系

## 第4章 施策の展開

## 第5章 重点プロジェクト

## 第6章 計画の推進・進行管理

- 1 推進体制・進行管理
- 2 指標設定による成果確認



# 1-2 | 岡山市自然環境保全審議会 各回の審議内容予定

審議内容	R6年度		
	第1回 R6.8.22	第2回 R6.12月頃	第3回 R7.2月頃
1. (仮称) 生物多様性おかやまプランの方向性			
・内容構成 (目次)	●		
・策定の視点			
・改定の背景、国内外の動向	●		
・市の方針、重視する事項	●		
2. 現状と課題			
・社会状況		●	
・自然状況		●	
・生物多様性の状況			
・生物相の状況	●	●	●
・地域区分、地域特性	●	●	●
・課題、取り組むべき事項		●	●

審議内容	R6年度		
	第1回 R6.8.22	第2回 R6.12月頃	第3回 R7.2月頃
・市民意識の把握(1)：アンケート調査			
・市民／事業者／中高生	●	●	
・市民意識の把握(2)：ワークショップ			
・市民、保全団体 (第1回：R6.7.21)	●		
・大学生 (第2回：R6.10.xx)		●	
・企業、保全団体 (第3回：R6.12.xx)			●
3. (仮称) 生物多様性おかやまプランの理念、将来像			
・理念、将来像	●	●	
4. 施策体系			
・目標		●	●
・施策、重点プロジェクト			●
・指標			



## 1-3 策定の視点

### (1) 改定の背景、国内外の動向

- 生物多様性の損失が、世界規模で急速に進んでいる。
- 2030年までにネイチャーポジティブ、すなわち「生物多様性の損失を止め自然を回復させる」ための行動を。
  - 30by30：2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する。
  - OECM：国立公園などの保護地域以外で生物多様性に貢献する地域のこと。
    - ➔ 日本型OECMとして「自然共生サイト」制度が2023年度より開始。

## 1-3 策定の視点

### ➤ 生物多様性増進活動促進法：

- 事業者等による地域における生物多様性の増進のための活動を促進する認定制度。2024年4月に公布。

➔ 自然共生サイトでは「場所」を認定したが、この法律では「活動」を認定。先に「活動」を認定することで「OECDM基準を満たす場所を増やす」後押しに。

#### ◆対象とする活動

- ①既に生物多様性が豊かな場所を維持する活動
- ②管理放棄地などにおける生物多様性を回復する活動
- ③開発跡地などにおける生物多様性を創出する活動

## 1-3 策定の視点

### (2) 策定の方針、重視する事項

- 国内外の動向と足並みをそろえつつも、岡山市ならではの課題を抽出し、環境特性や強みを活かしたプランを策定する
  - ➔①市指定の「共生地区」、②「身近な生きものの里制度」の認定地、③「重要生態系リスト」に選定された地域等を活用した保全の仕組みづくり 等
- 現行戦略の成果の棚卸しをしっかりと行う
  - ➔各種モニタリング調査結果の追加、指標の達成状況をふまえた課題の整理 等
- 時代の転換期である認識に立ち、若者世代の意向や考えを施策に積極的に取り入れる
  - ➔市民・事業者アンケート及びワークショップの実施においても、若者世代をターゲットとした内容を含む 等

## 2. 現状と課題

### 2-1 生物多様性の状況

- (1) 生物相の状況
- (2) 地域区分、地域特性

### 2-2 市民意識の把握①：アンケート調査（速報）

- 市民／事業者／中高生

### 2-3 市民意識の把握②：ワークショップ

- 市民、保全団体を対象としたワークショップ  
(第1回：R6.7.21実施)

## 2-1 生物多様性の状況

### (1) 生物相の状況

- 動植物リストの更新

現行戦略作成時に整備した動植物リスト（動植物データベース）に以下の調査結果を加えて、岡山市の動植物リストを更新する。

- ① 定点方式による自然環境モニタリング

- 重点的に調査を実施すべき地域において、野生生物の生息・生育状況の推移を把握するための調査

- ② イベント方式による自然環境モニタリング

- 公民館主催の環境講座で、市民参加型により意識啓発に重点を置いた調査

- ③ 河川水辺の国勢調査

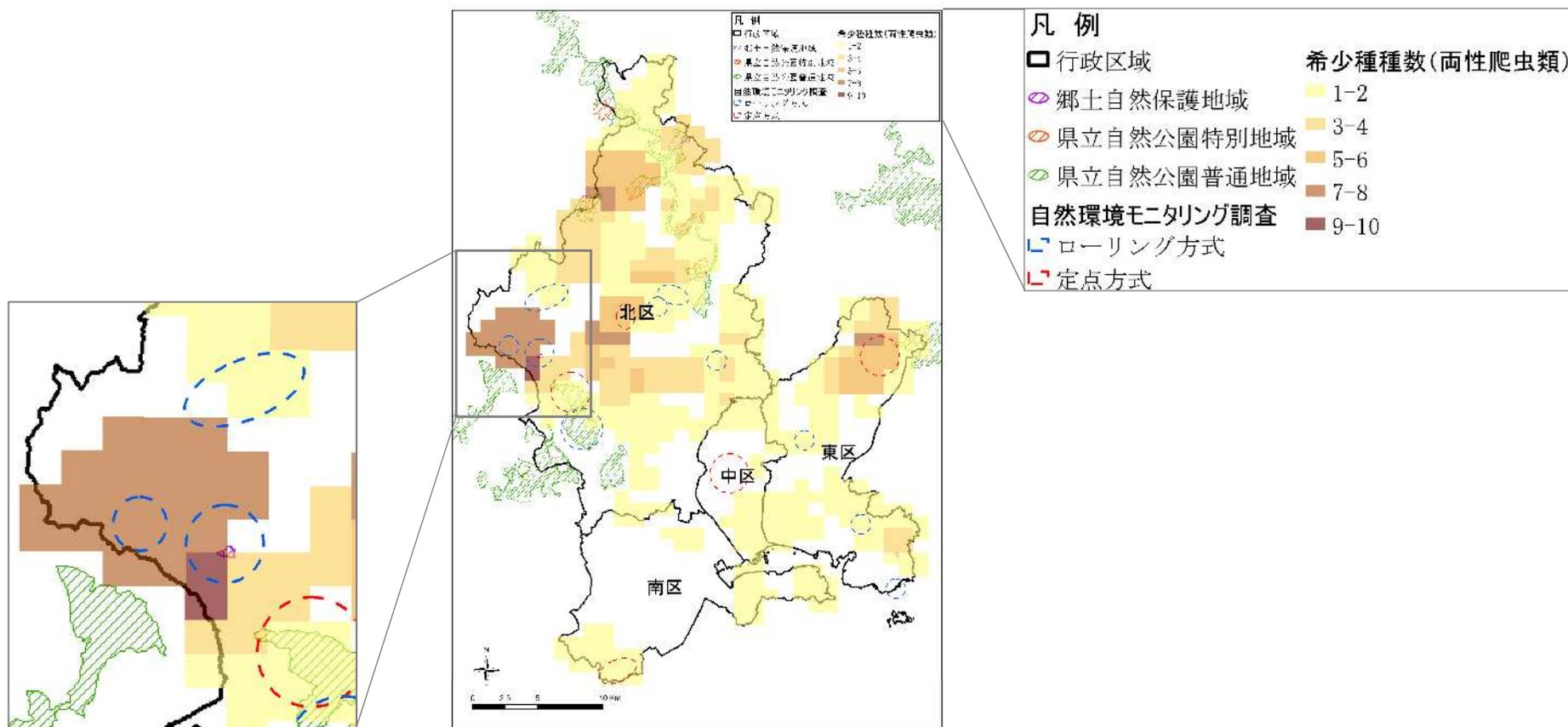
- 国土交通省が実施している調査で、定期的・継続的・統一的な河川に関する基礎情報の収集整備のための調査

## 2-1 生物多様性の状況

別紙資料あり

### ● 希少種の分布状況（3次メッシュ図）

- 希少種の確認状況を3次メッシュ（一辺の長さが約1kmの正方形の区画）に紐づけ、市域の希少種分布状況を高い解像度で“見える化”



Design: Suzuna Uchiyami (Chugoku Design College)

## 2-1 生物多様性の状況

### ● 「生物多様性の4つの危機」による課題の整理

- 例えば旭川や吉井川をはじめとした河川や市内水路における外来種の魚類の生息拡大 など

第1の危機：開発など人間活動による危機（森林伐採など）

第2の危機：自然に対する働きかけの縮小による危機（里地里山の生態系の損失など）

第3の危機：人間により持ち込まれたものによる危機（特定外来生物など）

第4の危機：地球環境の変化による危機（温暖化による生物の生息環境の変化など）

### ● その他

- 市民アンケート等による市民が感じる課題からの整理
- 現行戦略における目標の達成度評価からの整理



## 2-1 生物多様性の状況

別紙資料あり

### (2) 地域区分、地域特性

- 岡山市の自然環境の類型化

- 市内の自然環境は地域により異なることから、「地形」と「植生」の情報を重ね合わせるにより環境を類型化し、「環境のまとめり」として地域を区分して認識

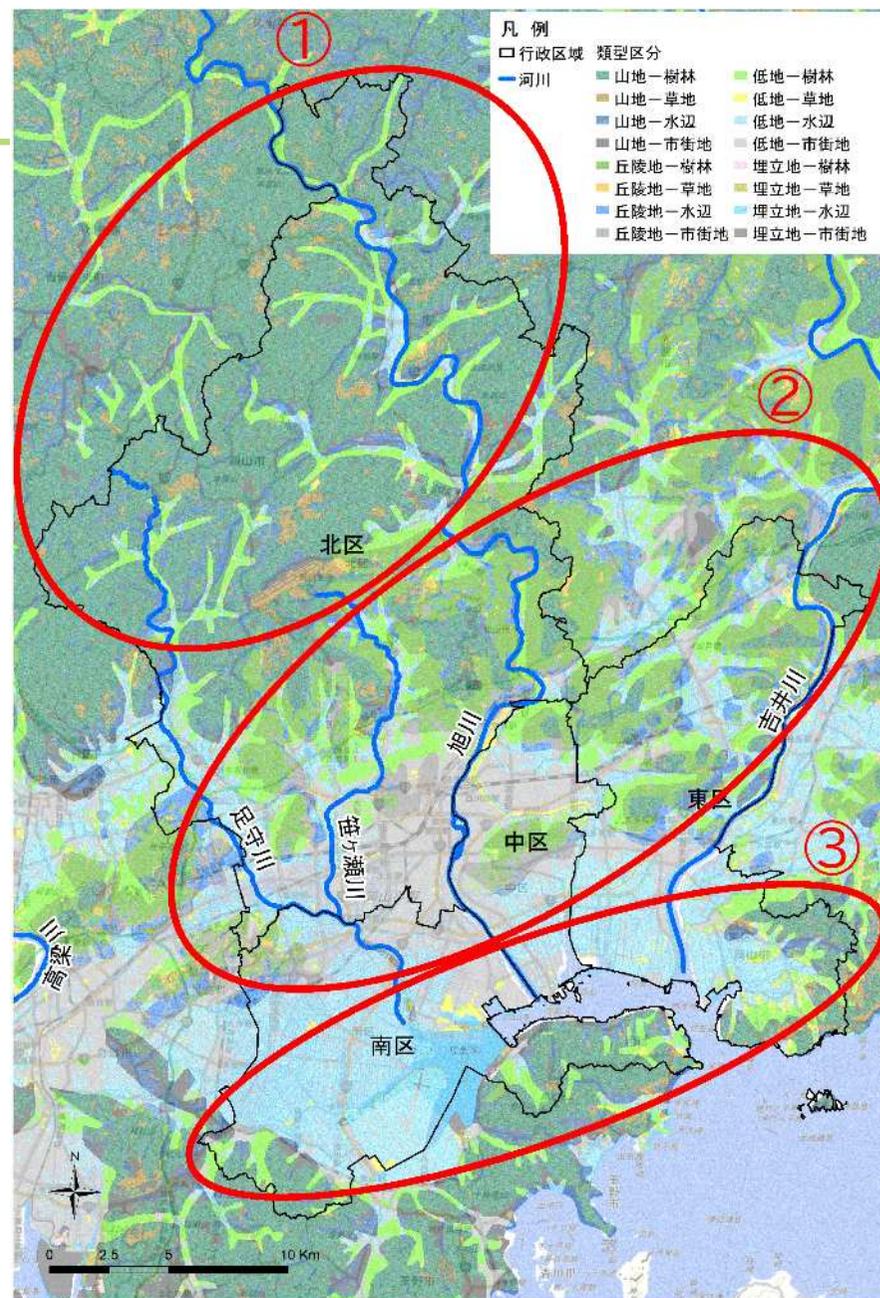


市内を地域に区分することによって、地域が有するそれぞれの特性に基づいた課題や保全対策、将来像を描くことができる。

## 2-1 生物多様性の状況

### 岡山市の自然

- ① 北側の山地地形に樹林が広がる山地エリア
- ② 中央部の丘陵地の樹林と低地の水辺環境が組み合わさった里地里山エリア
- ③ 南部の干拓地と沿岸部からなる沿岸域エリア

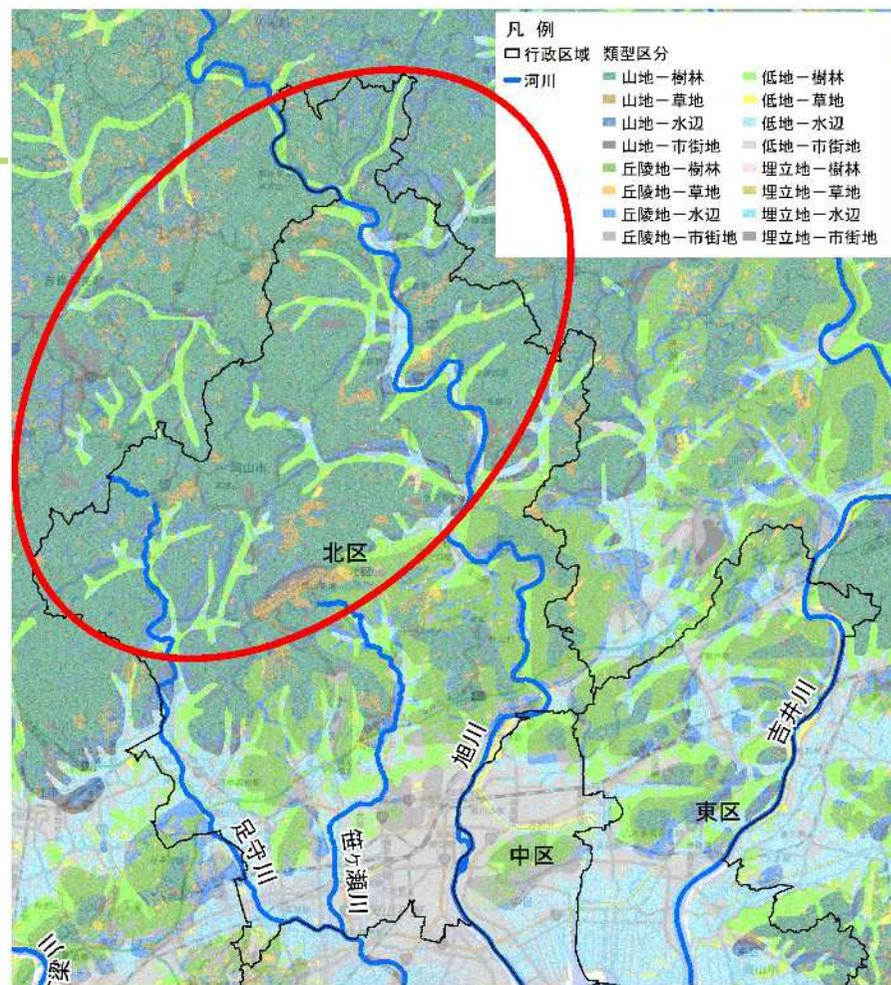


Design: Suzuna Uchiyami (Chugoku Design College)

## 2-1 生物多様性の状況

### ① 山地エリア

- 吉備高原を有する山地と旭川およびその支川流域に広がる谷底平野からなるエリア
- 生きものは、山地を代表する猛禽類のクマタカをはじめ、ヤマセミなど山地を生息地とする種や、セトウチサンショウウオのような里地里山を生息地とする種が多く生息

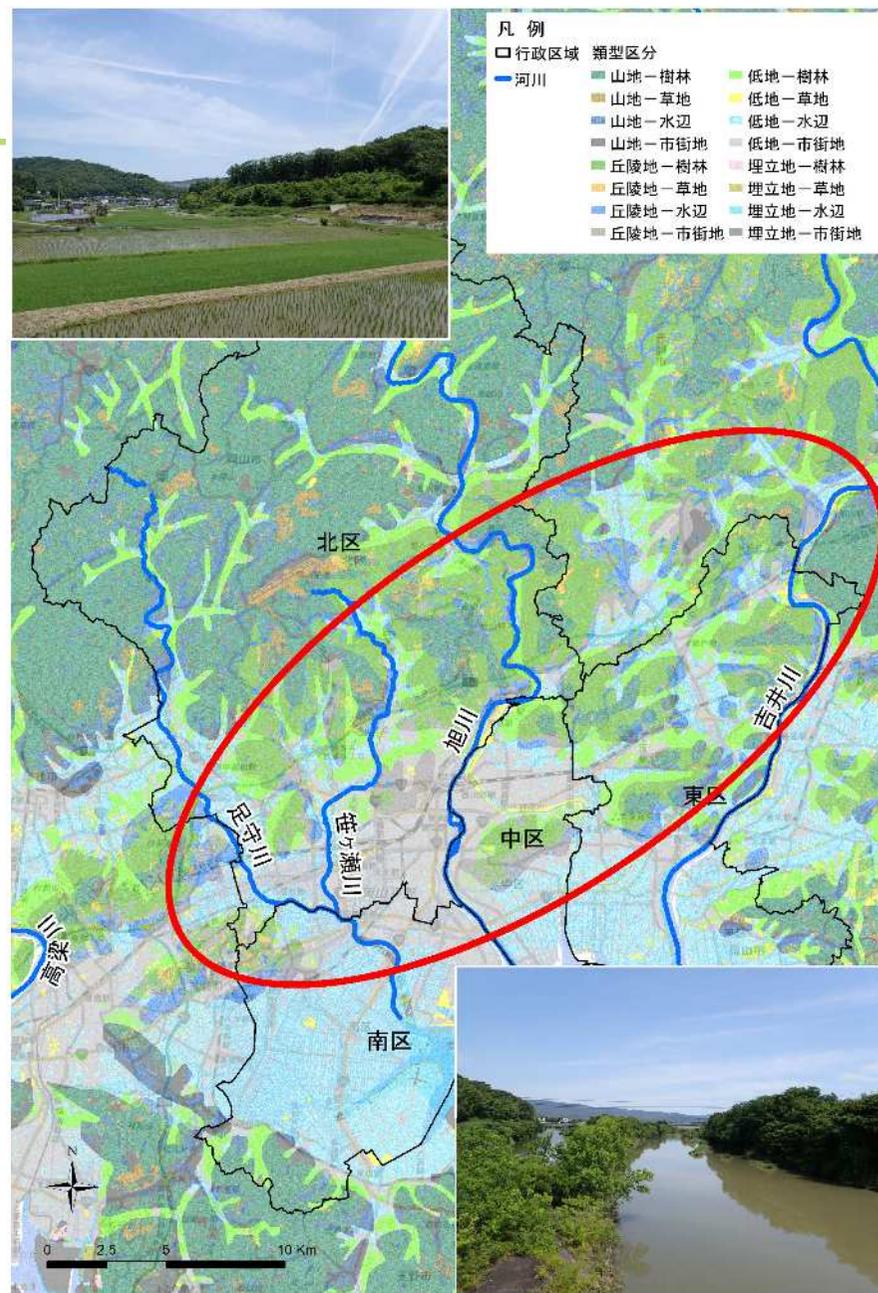


Design: Suzuna Uchiyami (Chugoku Design College)

## 2-1 生物多様性の状況

### ② 里地里山エリア

- 吉備高原南端部の丘陵部と、旭川・吉井川・足守川・笹ヶ瀬川などにより形成された沖積平野からなるエリア
- 生きものは、セトウチサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、アユモドキ、スイゲンゼニタナゴなど希少種が多く生息。岡山市内でも生物多様性の高いエリア

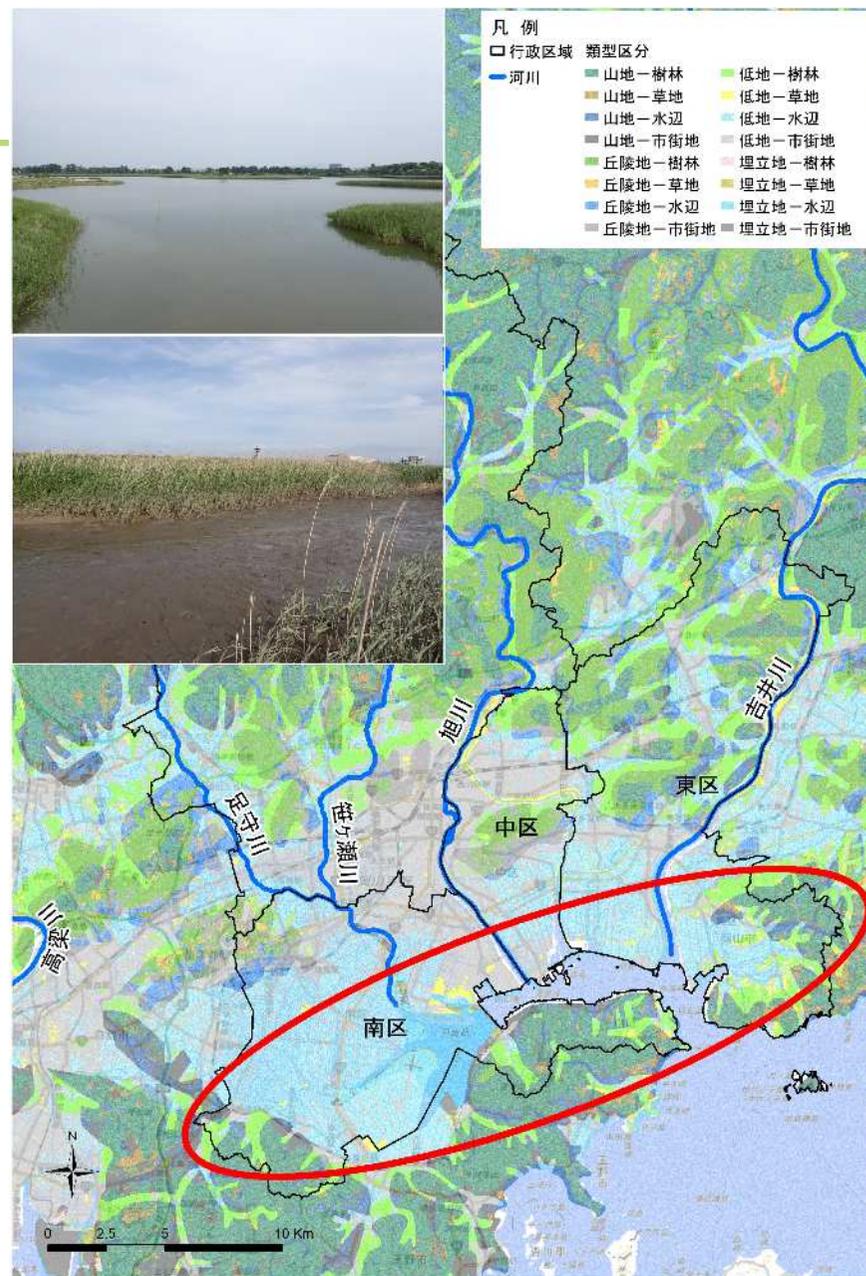


Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)

## 2-1 生物多様性の状況

### ③ 沿岸域エリア

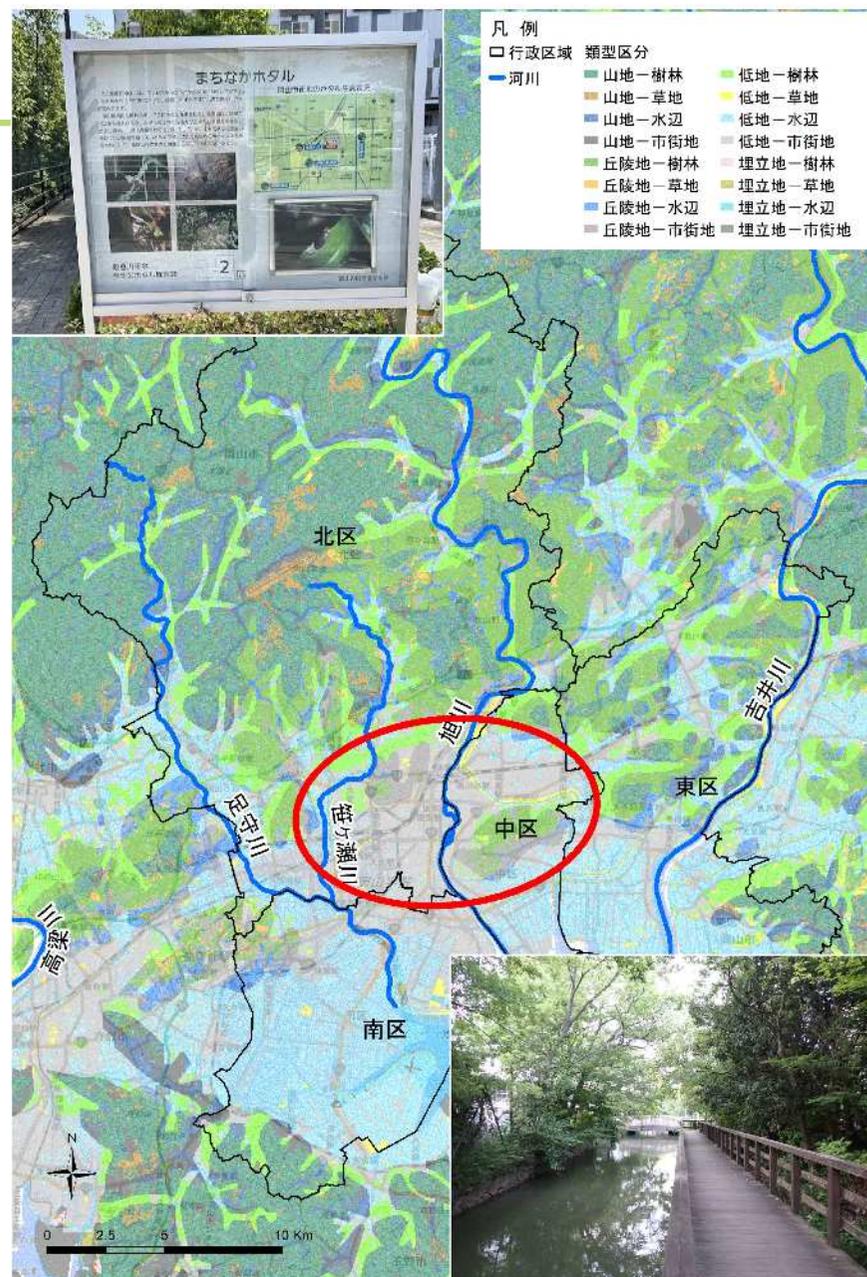
- 旭川・吉井川・笹ヶ瀬川・倉敷川の下流部に広がる沖積平野と干拓地、児島湾の沿岸部からなるエリア
- 生きものは、チュウヒをはじめ、カモ類、シギ類、チドリ類などの水鳥が多く生息。汽水域のカニ類や昆虫の希少種、多くの水生希少植物の生息・生育が確認されるエリア



## 2-1 生物多様性の状況

### ○ 市街地の自然

- 中心部は人口が密集し、市街地化している。
  - 植生図を見てもあまり緑がないように見えるが・・・
- ▼
- 旭川、百間川など河川が上流から下流までの緑の連続性を確保している。
  - 市内中心部にも水路網が発達しており、ゲンジボタルが生息していたり、タナゴ類が多く生息している。



Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)



## 2-2 | 市民意識の把握①：アンケート調査（速報）

別紙資料あり

調査の種類	対象	調査期間
中高生アンケート	中学生	令和6年6月27日～7月19日
	高校生	令和6年7月6日～7月19日
市民アンケート	市内在住者	令和6年7月2日（発送日）～7月29日（到着分）
事業者アンケート	市内事業者	

調査の種類	対象・対象数（名、社）		有効回収数（件）	有効回収率（％）
中高生アンケート	中学生	高松中学校：149 建部中学校：26 瀬戸中学校：121 光南台中学校：39 灘崎中学校：127 (計：462)	429	92.9
	高校生	岡山城東高校：114 高松農業高校：16 (計：130)	95	73.1
市民アンケート	市内在住者	1,500（20代以上から抽出）	402	26.8
事業者アンケート	市内事業者	300（市のグリーンカンパニー登録事業者）	138	46.0

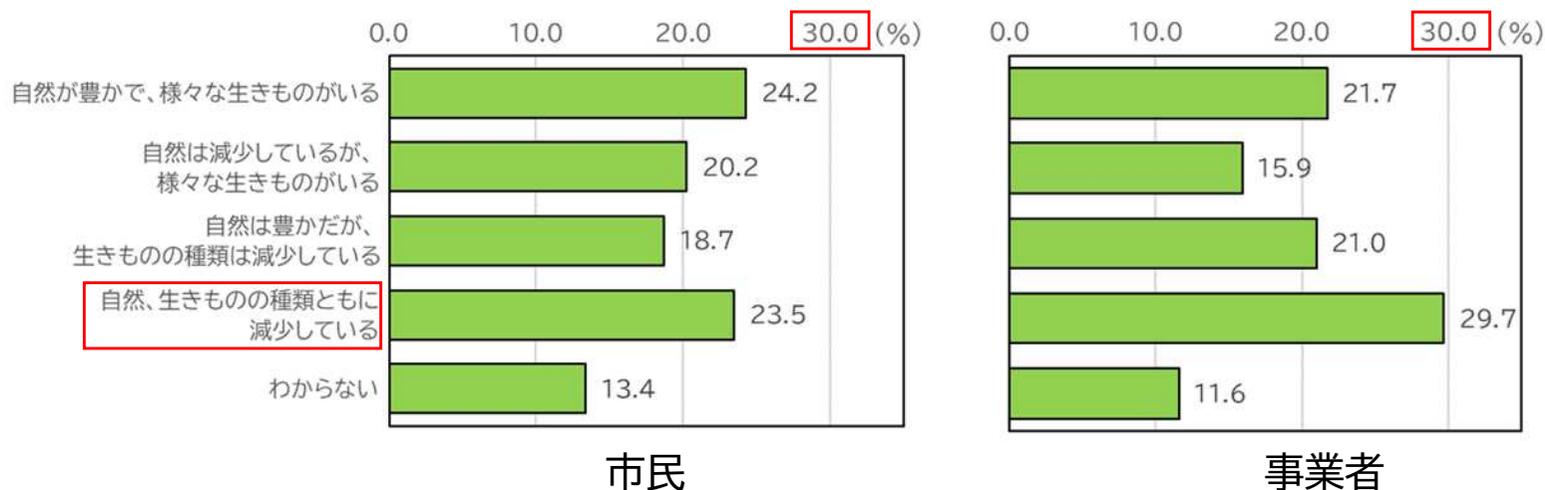
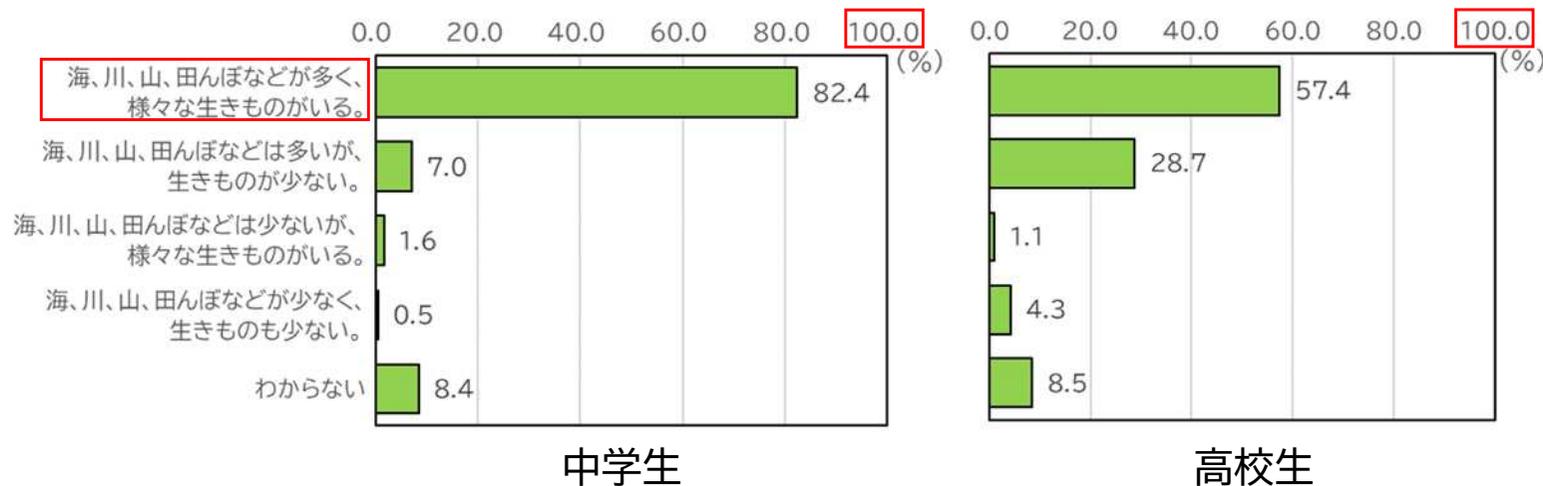
※中高生アンケートは、最終的には一つの結果として整理

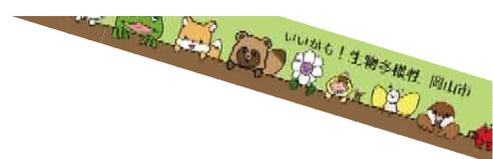




## 2-2 市民意識の把握①：アンケート調査結果（速報）

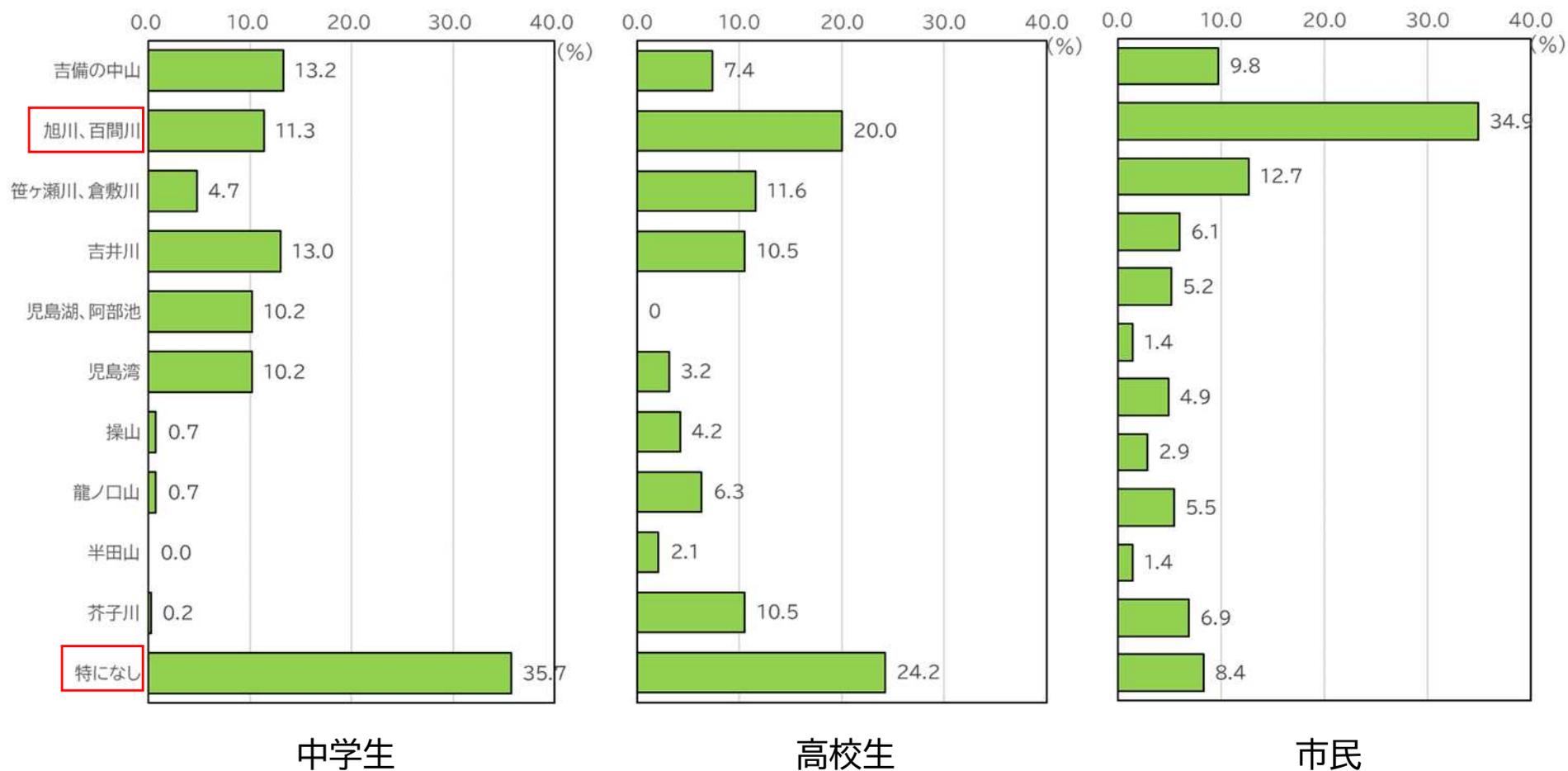
○「岡山市の自然についてどう思いますか？」





## 2-2 | 市民意識の把握①：アンケート調査結果（速報）

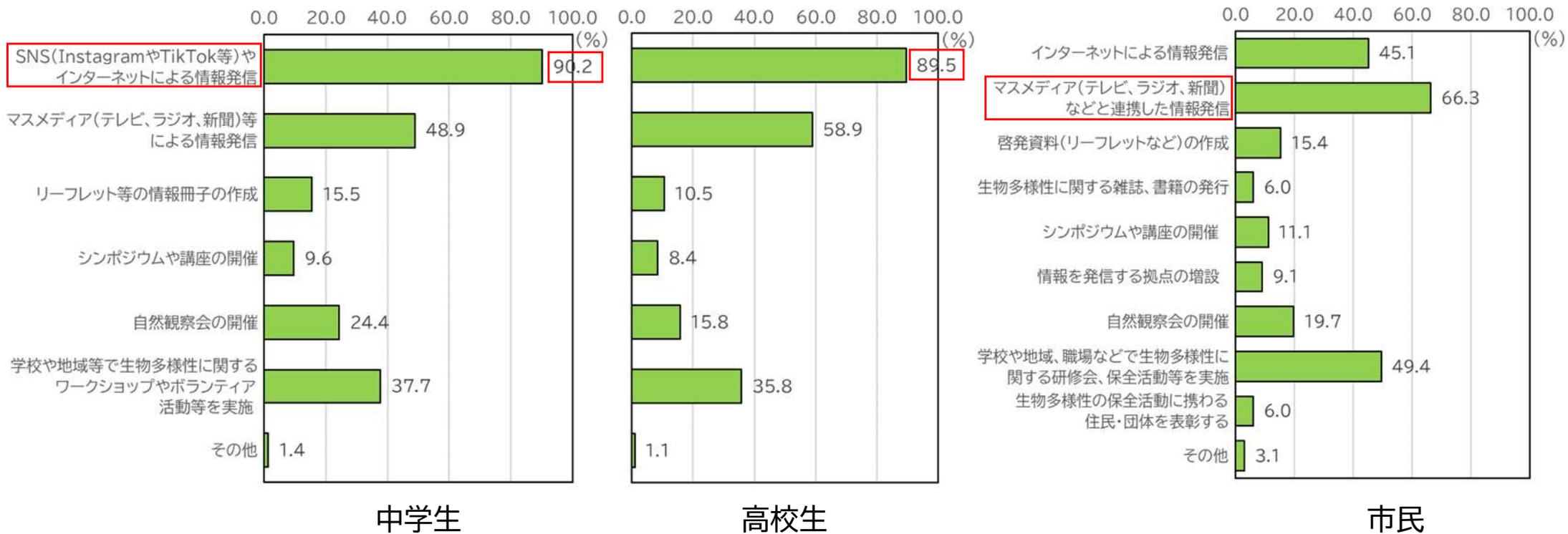
○「あなたにとって一番身近に感じる自然はどこですか？」

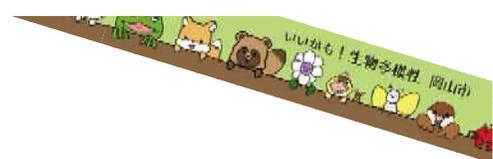




## 2-2 市民意識の把握①：アンケート調査結果（速報）

○「どのような方法を使うと、多くの人が生物多様性を知ることができると思いますか？」





## 2-2 | 市民意識の把握①：アンケート調査結果（速報）

### ◎ 事業者アンケートより

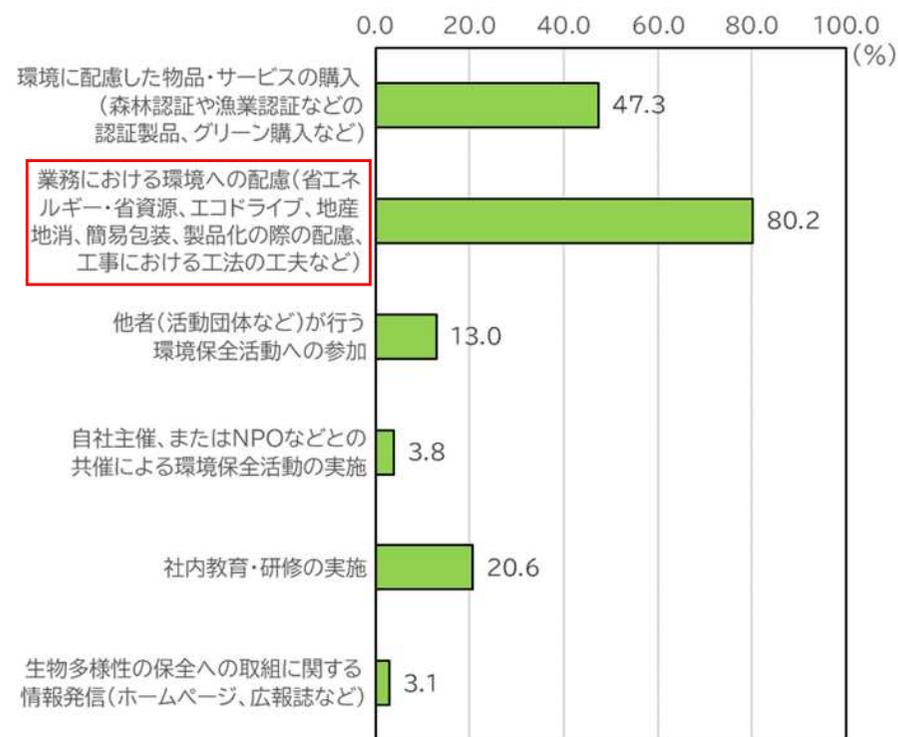
「環境に対する経営方針/事業活動において、生物多様性についてどのように位置付けているか」



「岡山市で適当な施策があれば生物多様性の保全活動に取り組みたいと思うか」



「多様性の保全に関連するものとして取り組む予定または将来的に検討している取組はあるか」



## 2-3 市民意識の把握②：ワークショップ

ねらい	岡山市の自然を知り、生物多様性の将来像(岡山市の10年後の姿)を描く
開催日時	令和6年7月21日 13:15~16:45
場所	岡山市立高島公民館
参加者	自然に関心がある一般市民(20代以上) ※その他市職員も参加 (SDGs・ESD推進課、農林水産課、生涯学習課、庭園都市推進課)
参加人数	21名(うち市職員4名含む) 男女比:男性15名、女性6名 年代別:20代3名、30代2名、40代3名、50代6名、60代以上7名
座学	・講師:岡山市自然環境保全審議会会長 中村 圭司 岡山理科大学教授 テーマ:地域環境の変化が昆虫に与える影響について
グループワーク	・岡山市の自然マップを作りながら、将来の生物多様性を考える
ゴール(目標)	・岡山市内の生物多様性の掘り起こし ・生物多様性に係る課題の整理 ・ネイチャーポジティブに向けた思いの共有 ・多様性戦略の将来像の意見集約



## 2-3 市民意識の把握②：ワークショップ

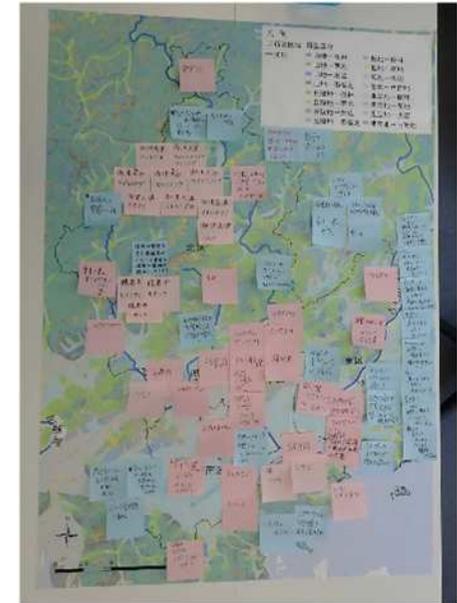
### 岡山市の自然の特徴と課題について(参加者意見)

#### ◆自然の特徴

- ・ 主に市街地近郊では、水路網が多く淡水魚の種数が多い。
- ・ 市域をつらぬく旭川を中心とした自然が象徴的である。
- ・ 人工環境の児島湖など、全域に良好な環境が散らばっている。
- ・ 森・里・海の連環が重要、連環のはじまりが感じられる。
- ・ 南側に干拓地が広がり、そこへ水をひくための水路が暗渠にならずに今も残っている。
- ・ 生きものは、ハヤブサ、チョウゲンボウ、チュウヒ、セトウチサンショウウオ、アユモドキ、スイゲンゼニタナゴ、ダルマガエルなど。

#### ◆課題

- ・ 外来種や交雑種の増加
- ・ アユモドキやダルマガエル、ホタルなどの衰退
- ・ 普通種の減少
- ・ 市街地化による田んぼの減少、農業の人出不足
- ・ 自然とのふれあう機会減少(川に入らなくなった)、自然離れ
- ・ 獣害の増加
- ・ 獣害の目撃情報を共有するwebシステムの構築
- ・ 保全活動管理者の高齢化、後継者不足、担い手の育成
- ・ 農業と経済活動の連携、環境保全型農業推進 など



Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)



## 2-3 | 市民意識の把握②：ワークショップ

### 岡山市の10年後の姿(参加者意見)

#### ◆自然・まちの状態

- 身近な自然で親子が自然をしったり、見たりすることができるまちになっている。
- 希少種の繁殖が、人手を介さずとも自然サイクルに戻り維持できている。
- 普通種が普通に見られ、生きもので季節を感じられるようなまちになっている。

#### ◆農業環境の状態

- 農業と経済活動の連携がなされ、環境保全型農業が推進されている。
- 農業に関わる人が増えている。
- 管理の手間を減らす自然栽培の活用が推進されている。

#### ◆取組の状態

- 自然共生サイトが増加している。
- 環境教育の場と質が確保されている。
- 岡山市の自然について学べる自然史博物館が設置されている。
- 獣害の目撃や駆除システムが構築され、ジビエ利用などが進んでいる。
- 外来種についての監視と教育が進んでいる。

#### ◆人の状態

- 若い世代が自分のいる地域を好きで、生き物好きな子供が増えている。
- 自分の生活と自然とのかかわりを考え、地域で解決する力、自ら取り組む姿勢が醸成されている。
- 地域の学校が保護者と連携して、市民の人材育成を行っている。

《テーマのキャッチ案》

- いのちをつないでいくまち岡山
- 市内全域自然共生サイト
- 普通種が普通に見られ、生きもので季節を感じられるまち

など

